

新作能

庭上梅

テイシヨオノシメ



ワイルド・ローヴァー号

庭上の一寒梅
笑ふて風雪を侵して開く
争わず又かめず
自ら占む 百花の魁

新島襄を讃えて

名古屋

2010年

11/13(土)

16:00~

名古屋能楽堂

東京公演

2008年 2/12 火

開演/18:15 (開場17:30) 入場無料

国立能楽堂 (東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1)

出演/観世流シテ方 井上 裕久 他

主催/学校法人 同志社 協力/「庭上梅」東京公演を支援する会
お問い合わせ/同志社法人事務部文書課B係 Tel: 075-251-3006

「庭上梅」名古屋公演の件

<同志社創立135周年記念事業の一環>

1. 記念事業
2. 記念行事
3. 記念募金

1 記念行事(7つの内のひとつ)

日時：2010年11月13日(土) 15時30分開場、16時00分開会
場所：名古屋能楽堂
出演：観世流シテ方 井上 裕久 他約20名
プログラム：<第1部> 講演「庭上梅について」講師 本井康博(神学部教授)
<第2部> 能「庭上梅」—新島襄を讃えて—
参加費：無料
経費：総額 約630万円

①広告協賛

★見開き2ページで最低100万以上を集める

案：(イ)メインの広告を中日新聞社・CBCもしくは中部電力等にて出稿(40万)

(ロ)愛知支部の校友に広く名刺広告を募集(1人1万円程度で60口程度)

→「大勢の校友が応援しています」というメッセージを表現したい為、名刺広告とする

※ダイキン(井上さん)、がんこ亭(小島さん)、OMRON(立石さん)、セコム(4社)は別途OK

②当日の誘致(観能)

★一般へのPRと招待者の選定

マスコミ一般公募	500席	…	目標2500人応募(大学へはがきにて)→500人抽選
招待席	100席	…	招待したい人をピックアップして名簿を提出
計	600席		(むしろ同志社を知ってもらう為、一般の方がベター)

学校から招待

③マスコミの取材を依頼(中日新聞社・CBC)

(1)中日新聞社・CBCに後援を依頼

(2)事前のPRを記事にて依頼

※校友会へは往復はがきで申し込みをして下さい

(3)校友会のホームページでもPRする

・スケジュール

・8月中	素材もらい
・9月中	パブリシティ
・9月20日	はがき締切
・10月上旬	抽選結果連絡

2 公演当日の手伝い

・5～6人でOK

3 「名古屋公演を応援する会」を組織

・大島寅夫先輩、豊原洋治先輩、伊藤支部長、山口の4名を発起人として立ち上げの予定

4 募金活動

- ★校友会で声かけして欲しい(8種類あり)
- ・パンフレットを配布してPRする(理事会+総会)

<参考1> 「庭上梅」について

- ・新島襄が同志社創立に託した理念をテーマとしたもので、新島襄を顕彰するために制作し、同志社の精神を高らかに謳い、新島精神を永遠に伝える思いを表現している
- ・同志社大学能楽部OB会紫謡会が中心となって制作

2005年11月26日 京都にて初演(創立130周年を記念し、寒梅館にて)

2008年 2月12日 東京にて上演(新島襄生誕165周年を記念し、東京国立能楽堂にて)

※2010年11月13日 名古屋にて上演(創立135周年を記念し、名古屋能楽堂にて)

<参考2> 経費の内訳

総額(概算)	630万円
--------	-------

(内訳)

使用料・舞台	30万円
PR・新聞掲載	170万円
プログラム他、印刷代	80万円
演能経費(交通費含む)	300万円
講師謝礼	10万円
郵便代、その他	10万円
交通費	30万円

能「庭上梅」

新島襄が同志社創立に託された教育理念をテーマとする能「庭上梅」は、同志社大学能楽部 OB 会紫謡会が中心になって、新島を顕彰するために制作されたものであり、2005年の初演当日は全国各地から約 800 名の観衆が、京都の同志社大学寒梅館ハーディーホールに集い、あらためて、新島の激動の生涯に想いを馳せ、大きな感動を呼びました。この感動をより大きな渦に広げていくため、学校法人同志社は、2008年2月、新島襄生誕165周年を記念して、新島の出生の地であり、21歳まで過ごした、能、能東京において、能「庭上梅」を国立能楽堂において上演いたしました。

新作能「庭上梅」を要約いたしますと、「新島が病床にあることを聞いた一学生が、梅花香る大磯の宿に見舞いに訪れる。病床にあっても宿願の大学設立の志はますます高揚している。新島は、一学生の見舞いに心慰められて『自責の杖』などの苦難の体験を語り、漢詩「庭上一寒梅」に自らの信念を託し同志社の発展を願い、やがて新島は寢所に入り、暫しまどろむうちに夢を見る。その夢は21世紀にまで及び、新島の志を体得した数多くの学生が「舞」を舞い、同志社精神を高らかに謳い、新島精神を永遠に伝えることを誓い合っている。間狂言では、新島に仕えた「五平」が、新島の米国での募金のエピソードや日常の姿を語る。」というものです。

能「庭上梅」の題名の由来は1890年（明治23年）正月に、新島襄が静養先の大磯の宿で詠んだ漢詩「庭上一寒梅」によるもので、新島襄の最期を飾るにふさわしい感動的な一編であります。

梅の花をこよなく愛した新島は、「庭上の一寒梅 笑って風雪を侵して開く 争わず又方^{つと}めず 自ら占む百花の魁^{さきがけ}」、^{さきがけ}「真理は寒梅の似し 敢えて風雪を侵して開く」など、慎ましく咲く梅の花にスポットを当てたなんとも彼らしい詩を残しています。

新作能は、これらの詩からも読み取ることが出来る新島の人となりや、彼の壮大で崇高な理想や夢を、学生や用務員を通じて鮮明に描写するものであり、新島の志と同志社の将来に対する深い愛に満ちた作品となっています。

同志社創立135周年記念事業趣旨

学校法人同志社は、2010年11月29日、創立135周年を迎えます。

同志社は1875年（明治8年）11月29日、同志社英学校として新島襄により京都の地に創立されました。以来、キリスト教主義を徳育の基本とし、「教育あり、知識あり、品行ある」、「一国の良心」ともいうべき人物の養成を目指して今日まで歩んでまいりました。

創立135周年を迎えるにあたり、今一度、建学の精神であるキリスト教主義、自由主義および国際主義を基礎とした良心教育を改めて確認するとともに、今後もこの精神をさらに広く深く継承・発展させていくことを企図して、創立135周年記念事業を計画いたしました。事業は、記念事業、記念行事、記念募金となっています。

今回、記念行事の一環として、能「庭上梅」名古屋公演会の開催となりました。

能「庭上梅」は、新島襄が同志社創立に託された教育理念をテーマとし、日本が誇る世界無形遺産（能楽）という形式をふまえて、この度、新島の精神をより多くの人々伝え、後世にも遺したいという制作理念の実践として上演するものです。

同志社創立135周年記念

能「庭上梅」名古屋公演会

主催 学校法人同志社

日時： 2010年11月13日（土） 15時30分開場 16時00分開会

場所： 名古屋能楽堂

出演： 観世流シテ方 井上裕久 他、約20名

プログラム

16:00 開会 挨拶

10 講演 「庭上梅について」 講師 本井康博 神学部教授

45 能「庭上梅」～新島襄をたたえて～ 上演

17:50 終演 挨拶

経費（概算）	総額	
使用料、舞台	300,000円	
PR, 新聞掲載	1,700,000円	
プログラム他、印刷代	800,000円	
演能経費（交通費含む）	3,000,000円	
講師謝礼	100,000円	
郵便代、その他	100,000円	
交通費	300,000円	

* 企業からの協賛金は、300万円以上を目標としたい。

ご挨拶

同志社は1875年(明治8年)11月29日、新島襄により生徒8名、教員2名の英学校として京都の地に創立されました。以来、キリスト教主義を徳育の基本とし、「教育あり、知識あり、品行ある」「一国の良心」ともいうべき人々の養成をめざして今日まで歩いてまいりました。

現在、学校法人同志社は、「幼稚園ヨリ大学ニ至ル」一貫教育の確立を切望していた創立者新島襄の夢が実現し、12の学部と12の大学院研究科および2つの専門職大学院を擁する同志社大学、5つの学部と4つの大学院研究科を擁する女子大学、4つの高等学校、4つの中学校、1つの小学校、1つの幼稚園を併せて12の学校があり、約4万人が学ぶ一大総合学園に発展してまいりました。

この間、建学の理念であるキリスト教主義、自由主義および国際主義を基礎とした良心教育の精神を活かした私学であり続けるため、時代のニーズに即応した教育改革の推進に努め、多数の有為な人物を世界の各地各界に輩出し、わが国有数の私立大学としてその使命を果たしてまいりました。

さらに、国際主義を標榜する同志社として、外国人児童・生徒や帰国児童・生徒の教育を担うことは、建学の理念に基づく責務と考え、初等教育段階から国際感覚豊かな人物の育成を目標として、2011年4月に同志社国際学院初等部を、2011年9月に同志社国際学院国際部をそれぞれ開校する予定です。

これもひとえに社会各層の深いご理解とご父母、卒業生、篤志家のみなさま方の温かいご支援、ご尽力の賜物であり、深く感謝いたしております。

同志社は、社会における新たなニーズに忘えながら、世界水準の研究・教育を展開し、同志社の教学の理念のもとに、将来にわたって「良心の全身に充満した」人物を育成して、世界とわが国に貢献するものとならなければならないと考えております。

創立当時、新島襄は「同志社の完成には200年」と申しました。その新島の意志を受け継ぎ、2010年11月29日に同志社創立135周年を迎えるにあたって、同志社の更なる飛躍を目指し、同志社創立135周年記念事業、記念行事、記念募金等の事業を皆様のお力添えを賜り、実施いたしたく存じます。

つきましては諸事ご多端の折り、まことに恐縮に存じますが、同志社が実現しようとする教育理念とこの念願を深くご理解くださいます、なにとぞご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2010年2月

学校法人 同志社

総 長 大谷 實
理事長 野本真也